見えない水脈を
まちの顔へ

株式会社日建設計
株式会社ロフトワーク
ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社
設計共同体

島本の歴史・文化を
育んできた水の流れを、
駅前の風景として顕在化します

Aqua Memoria

NIKKEN SEKKEI LTD
Loftwork Inc.
JR West Japan Consultants Company

Contents

1. 事業者実績 —— P2
2. 業務の実施方針 —— P3
3. 東エリア活性化プランのアイディア —— P4〜14
4. 業務実施スケジュール —— P15

源流から地下水へつながる水の流れを読み解き、島本らしい計画に反映します

地質が生む豊かな地下水

- 水無瀬の川の源流に広がる山地は、古い海底堆積物に由来する硬い岩盤で構成されます。表層の亀裂や緩みが雨水を受け止め、地下へ浸透させることで、豊かな地下水を育みます。
- 源流域の山地で涵養された水は、岩盤や地層の隙間を通って低地へ流れ、湧水や平野部の地下水として現れます。山からまちへ流れる見えない水の流れが、島本の風土を支えてきました。
- ろ過された清らかな地下水は、井戸や暮らしの水、茶の湯や地域の営みと結びつき、島本の生活・文化を支えてきました。



水無瀬川上流



離宮の水

水が育んだ島本の歴史・文化

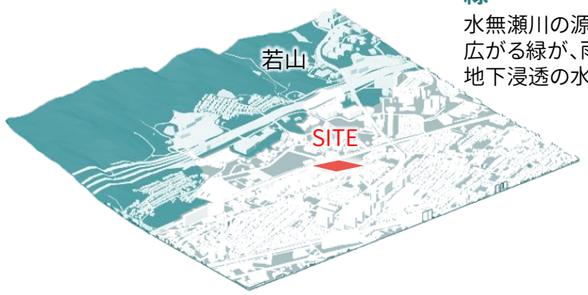
- 江戸時代の絵図『山崎通分間延絵図』には、桜井駅跡周辺に池の存在が描かれています。地下水が地表に現れ、池や湧水として利用されていた土地の記憶を今に伝えています。
- 水無瀬川源流域の森に育まれた豊かな水源があったからこそ、人や物が集まり、西国街道沿いに桜井駅の歴史が育まれたのではないかと考えます。そして、水の恵みは、暮らし・往来・集いの文化を支えてきました。
- 島本駅周辺は、桜井駅跡や『太平記』の「桜井の別れ」の伝承を受け継ぐ歴史文化の拠点です。これらの歴史はかつての水の記憶から生まれた、島本らしさの断片であると捉えます。



『山崎通分間延絵図』

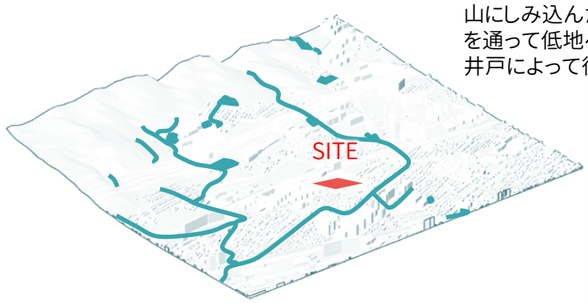
緑が水を育み、水が往来と文化を支えてきた

- 水無瀬川の源流域の森から広がる緑は雨を受け止め、地下へ浸透する水を育んできました。その水は湧水・井戸・ため池として人々の暮らしを支え、やがて西国街道沿いの往来や桜井駅の歴史文化を育む基盤となりました。
- 源流域の森から山地、川、そしてまちへと連なる、緑・水・交通のつながりを一体の環境として読み解いていきます。



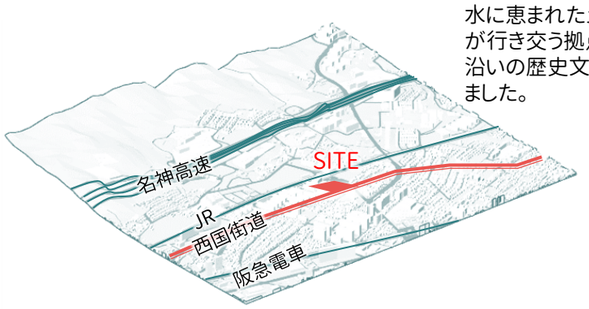
緑

水無瀬川の源流域の森から広がる緑が、雨を受け止め、地下浸透の水源となります。



水

山にしみ込んだ雨水は、地下を通って低地へ流れ、湧水や井戸によって循環しています。



交通

水に恵まれた土地は、人や物が行き交う拠点となり、街道沿いの歴史文化を育んできました。

水が育んだ、島本らしい風景と文化

- 若山に降った雨は、岩盤の亀裂や地層の隙間を通って地下へしみ込み、山麓から低地へさらには桂川へと流れこんでいきます。見えない水の流れは、湧水・井戸・ため池を生み、暮らしや往来を支え、島本らしい風景と文化をうみだしています。

水の記憶、歴史の重なり、日々の使われ方を読み解き、駅前空間の再編に結びつけます

旧河道が示す、駅前に刻まれた水の記憶

- 治水地形分類図を重ねると、現在の島本駅東エリア周辺に旧河道の痕跡が読み取れます。
- かつてこの場所には、湧水やため池を水源とする豊かな水の流れがあり、低地の暮らしや往来を支えていた可能性があります。

水辺に生まれた、往来の拠点

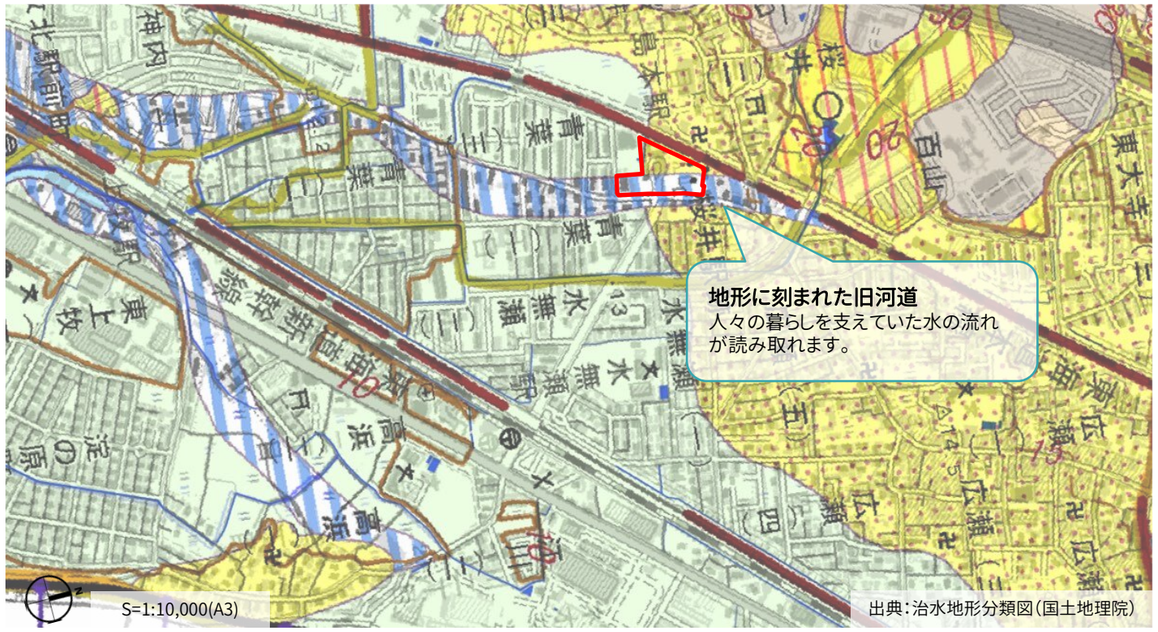
- 空中写真や絵図からは、西国街道沿いの史跡公園周辺に池や水面の存在が読み取れます。
- 湧水や地下水が地表に現れる豊かな水辺があったことが、人や物が行き交う街道沿いの休息・滞留を支え、桜井駅が成立する背景の一つになったのではないかと考えます。

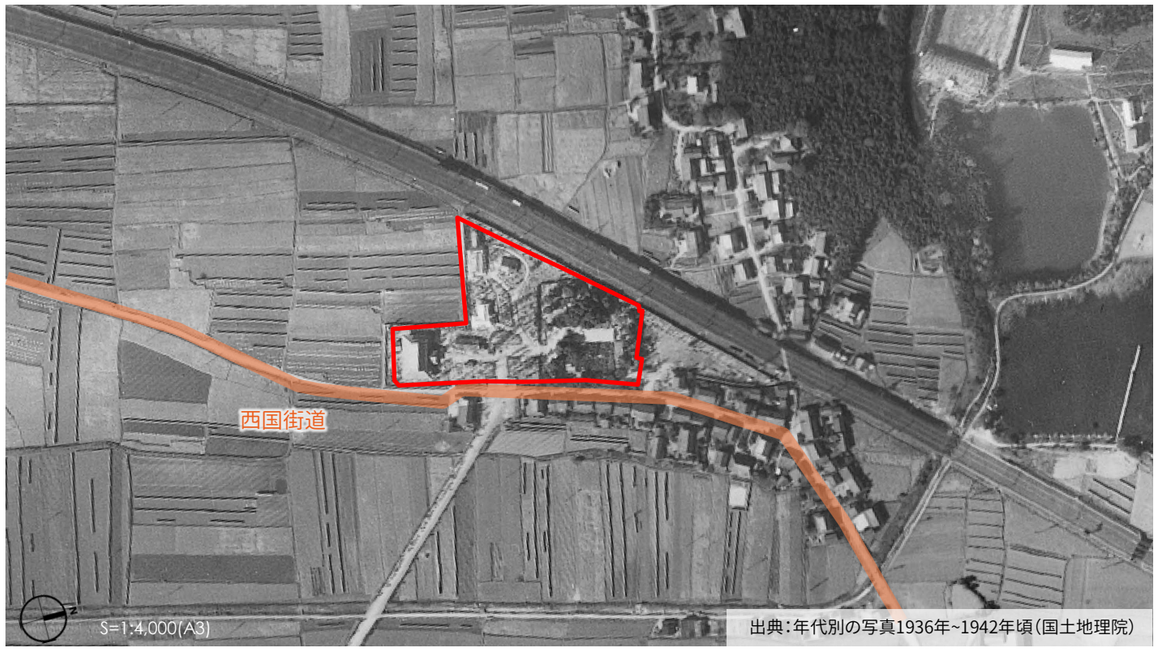
水と街道の記憶を受け継ぐ歴史文化拠点

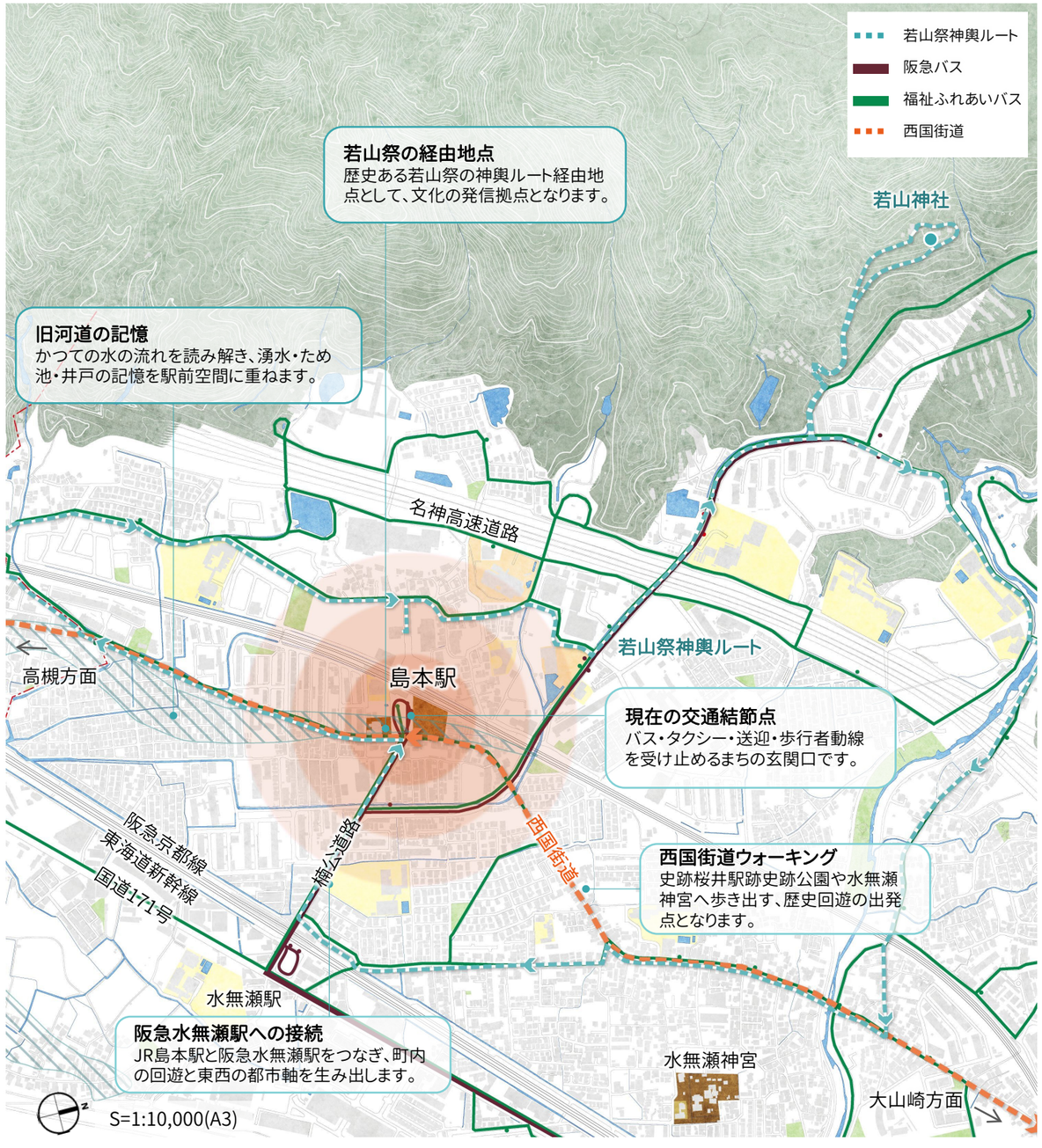
- 左記のような豊かな水辺と西国街道の往来が重なった桜井駅跡周辺は、人や物が集まり、歴史文化を育んできました。
- 現在も、歴史文化資料館と史跡桜井駅跡史跡公園が立地する島本駅東エリアは、町の歴史文化を発信する拠点として位置づけられています。

にぎわいの骨格、まち歩きの起点へ

- 楠公道路は、JR島本駅と阪急水無瀬駅を結び、日常交通とまち歩きを支えるにぎわいの骨格です。
- 島本駅前広場はその起点として、駅利用者を受け止め、歴史文化資料館・史跡公園・西国街道へ自然に歩き出す玄関口として位置付けます。
- 駅前広場を楠公道路に開くことで、駅利用だけで完結しない回遊と滞在を生み出します。







駅に降り立った瞬間から、水の記憶と歴史に出会う「ひとつながりの潤った大地」をつくります



3つの敷地をひとつの大地としてつなぐ

駅前広場・歴史文化資料館・史跡公園の敷地境界を越え、歩行者が自然に回遊できる一体的な公共空間として再編します。島本の水・歴史・みどりに出会う、まちの顔をつくります。

交通を整え、滞在の余白を生み出す

バス・タクシー・一般車による送迎・自転車・歩行者の動線を整理し、交通結節点としての機能の上に居場所を重ねます。通過する駅前から、留まり憩う駅前へと転換します。

史跡と樹木を、風景の骨格として受け継ぐ

史跡公園の石碑は原位置保存を基本とし、既存樹木は樹木調査・管理条件を踏まえながら可能な限り保存・活用します。時間を重ねて地域に根付いてきた資源を、新たな植栽やしつらえと結び、島本らしい風景の骨格として継承します。

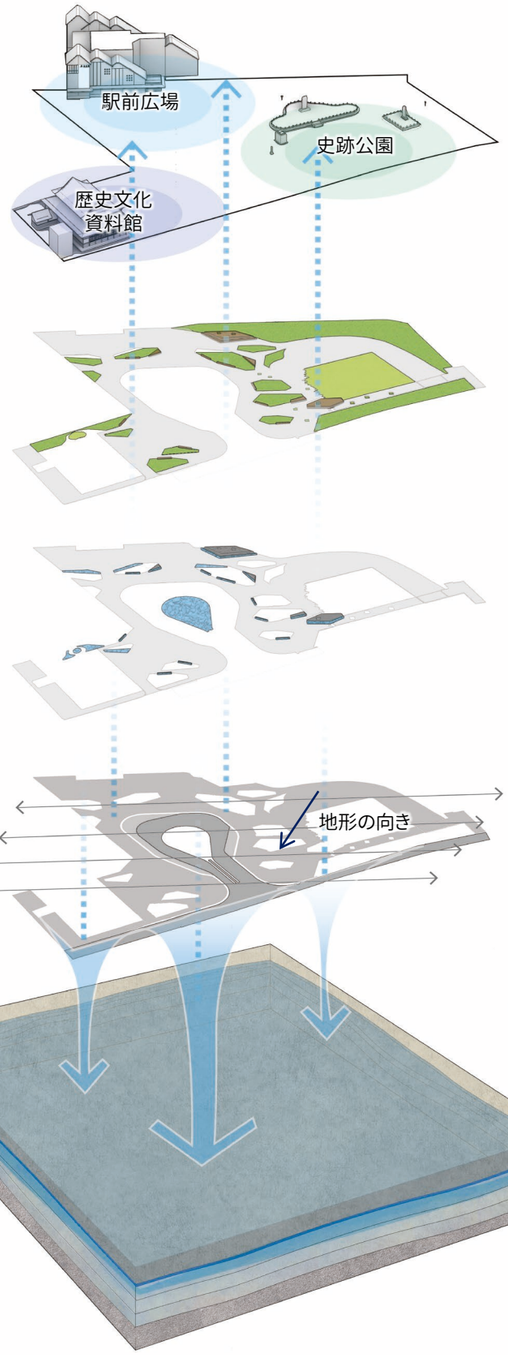
楠公道路・西国街道への顔づくり

楠公道路・西国街道に面する駅前広場を、島本駅東エリアへのまち歩きの起点として位置づけます。JR島本駅と阪急水無瀬駅を結ぶ通りから活動が見える居場所を設け、エリア全体のにぎわいへつなげます。

Aqua Memoria 見えない水脈をまちの顔へ

見えない水を地表の肌理（きり）としてあらわす

- 島本駅東エリアの地面の下には、豊かな地下水や旧河道の記憶が佇んでいます。本計画では、その見えない水の流れを、単なる形のモチーフとしてではなく、地下と地表をつなぐデザイン操作として捉えます。
- 雨水を受け止めるレインガーデン、透水性のある舗装、礫石をカゴに詰めたベンチ、緑陰を生む水辺の植栽などを通じて、水の気配が地表の肌理としてあらわれる駅前空間をつくります。その特徴的な風景が人々を迎え、水文化に触れ、歴史に出会い、活動が生まれる体験へとつながります。



3つの特徴ある広場
駅前広場、歴史文化資料館、史跡公園のそれぞれの使われ方によって滞留空間の設えを変え、個性をつくります。

潤いある緑地と滞留空間
豊かな樹冠の下は、水の気配が感じられ、涼しくて心地の良い居場所が多く生まれます。

地下と地表の水を循環させる装置
見えない地下水をくみ上げる井戸や、雨水をゆっくりと地中に浸透させるレインガーデン等により、水の循環を可視化します。

島本の地形を引き込んだ軸線
若山から淀川に至る、南東方向の緩やかな勾配を舗装パターンとして引き込みます。

水脈を感じ、雨水を地中に返す
島本の歴史・文化を形成してきた地下水脈を地上に引き込みつつ、再び地中へ戻すことで豊かにします。

水の気配で出迎える広場

- 駅に降り立つ人々を、水の気配と緑陰でやさしく迎える広場です。
- レインガーデンや透水性舗装、木陰の居場所を通じて、見えない地下水の存在を日常の風景として感じられる玄関口をつくります。



水文化を育む広場

- 井戸水を利用したカフェや野点など、水を味わい、語らう活動を受け止める広場です。
- 資料館前の屋内外が連続する縁側空間と連携し、島本の水文化を体験として育てます。



歴史に出会う広場

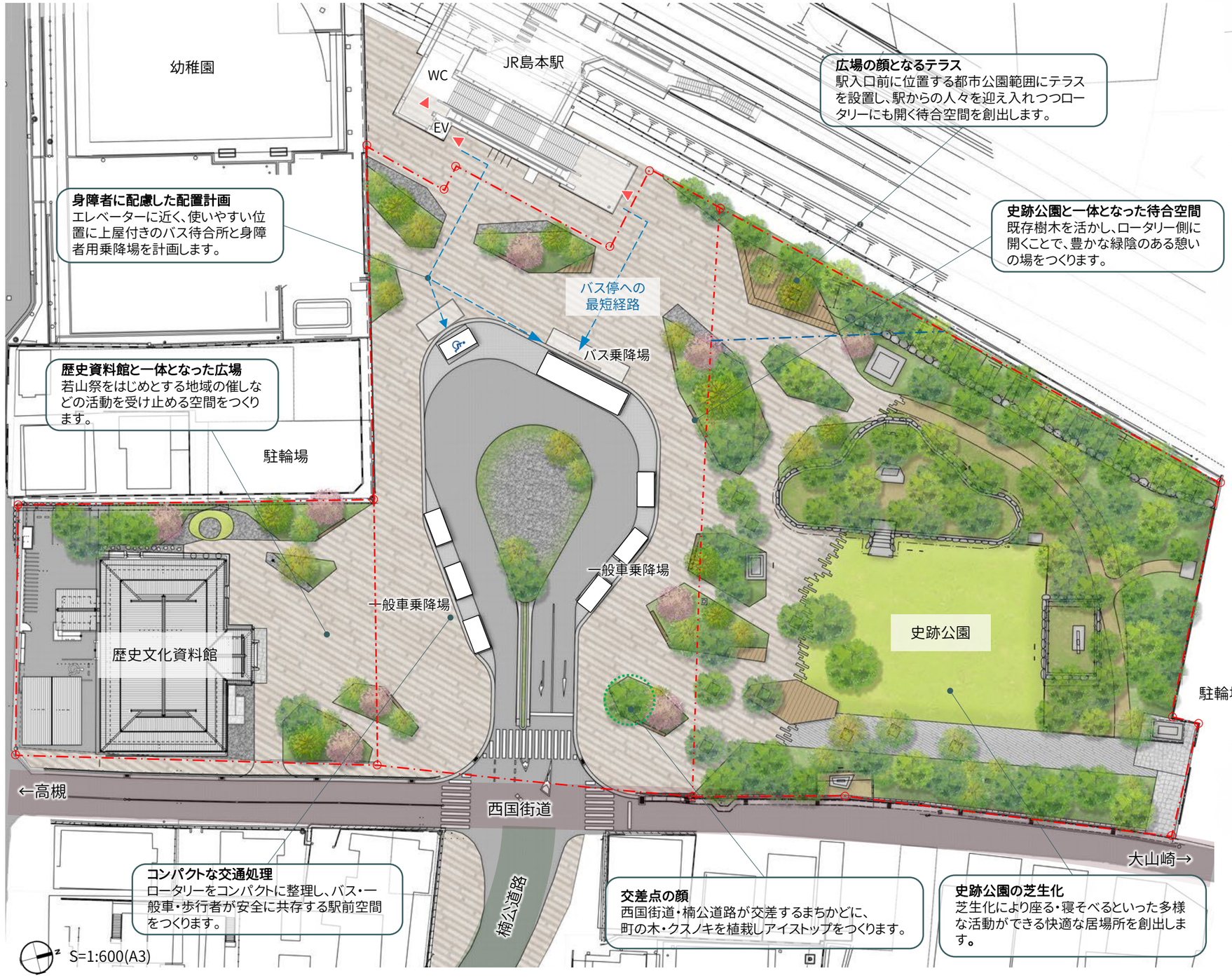
- 史跡公園の石碑や既存樹木の風格を活かし、島本の歴史に自然と触れられる広場です。
- 西国街道の往来や桜井駅跡の記憶を受け継ぎ、まち歩きや学びの起点となる場をつくります。



分断をつなぎ、交通・滞在・回遊が重なる駅前空間へ再編します

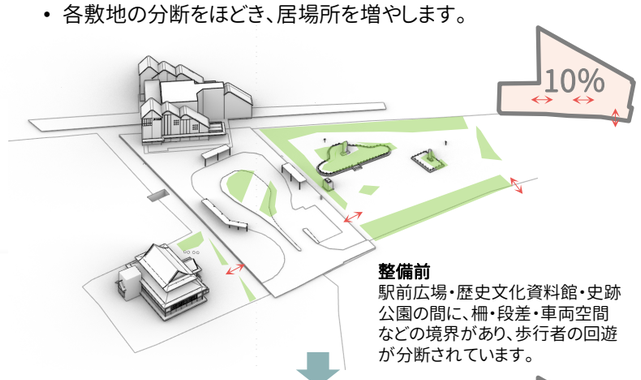
3つの敷地をつなぎ、居心地のよい駅前空間へ転換します

- 駅前広場・歴史文化資料館・史跡公園を分断していた柵・段差・車両空間を整理し、歩行者が自然に行き来できる一体的な駅前空間へ再編します。
- 交通機能を確保しながら、バス待合、資料館前広場、史跡公園の木陰、ポケットスペースを連続させ、通過する駅前から、待つ・休む・立ち寄る・歩き出すための居場所へ転換します。

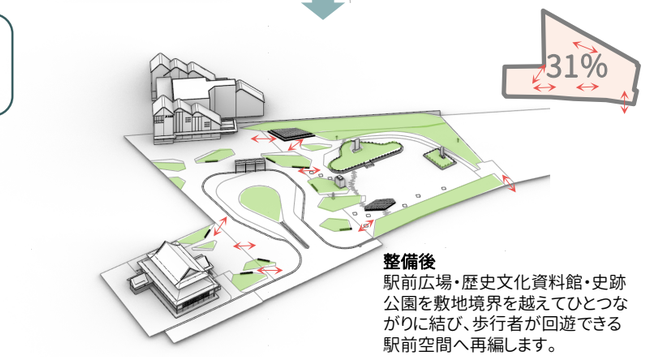


整備前後の比較

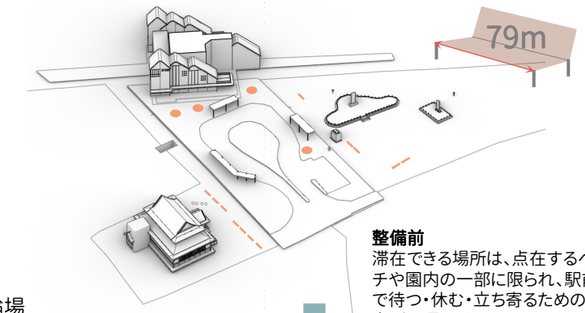
- 各敷地の分断をほどき、居場所を増やします。



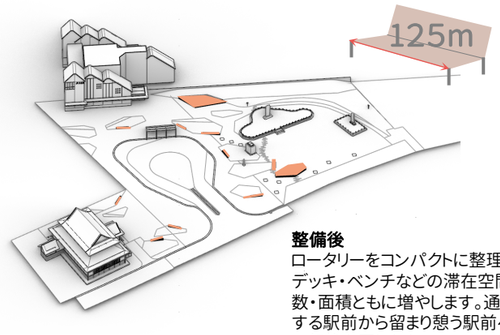
整備前
駅前広場・歴史文化資料館・史跡公園の間に、柵・段差・車両空間などの境界があり、歩行者の回遊が分断されています。



整備後
駅前広場・歴史文化資料館・史跡公園を敷地境界を越えてひとつながりに結び、歩行者が回遊できる駅前空間へ再編します。



整備前
滞在できる場所は、点在するベンチや園内の一部に限られ、駅前で待つ・休む・立ち寄るための余白が不足しています。



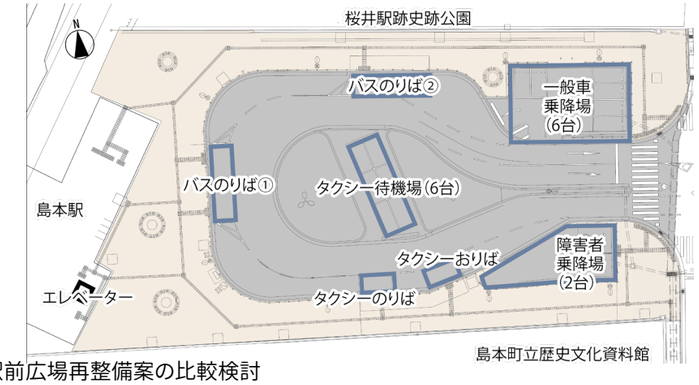
整備後
ロータリーをコンパクトに整理し、デッキ・ベンチなどの滞在空間を数・面積ともに増やします。通過する駅前から留まり憩う駅前への転換を図ります。

交通機能を検証しながら、ウォーカブルで居心地の良い駅前広場を提案します。

駅前広場の現状と課題

- 現在の駅前広場は面積約4,020㎡で、その内訳は車道約2,150㎡(53%)、歩道約1,870㎡ (47%)となっています。
- バスのりばは2バースあり、②のりばは利用率が低い状況です。
- タクシーはのりばおりば各1バースとなっています。
- 一般車乗降場が出口付近に6台設置されていますが、ロータリー内でも一般車が乗降されており、混雑時にはバス、タクシーの妨げとなっています。
- 障害者乗降場が自由通路のエレベーターから離れており、バリアフリーの観点で課題が見られます。

駅前広場の現状



駅前広場再整備案の比較検討

のりば別バス発着便数(参照:阪急バスHP)

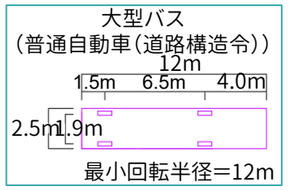
	平日	休日
①のりば	49(91%)	53(95%)
②のりば	5(9%)	3(5%)
合計	54	56





見直しにあたっての考え方

- 現状と課題を踏まえ、本プロポーザルの提案にあたっては、駅前広場の導入機能及び施設数を以下の通り仮設定し、最大乗入車両である大型バス(道路構造令 普通自動車)の走行軌跡を考慮して配置パターン3案を比較検討し、案2ベースで進めます。



■バス

- 駅前広場計画指針に基づき、ピーク時(7時台)の6便/時の処理に必要となる1バースと設定します。

  (60分間のバス便数)×(バスサービス時間)×1/60 = 6台 × 5分 /60 = 1

■タクシー

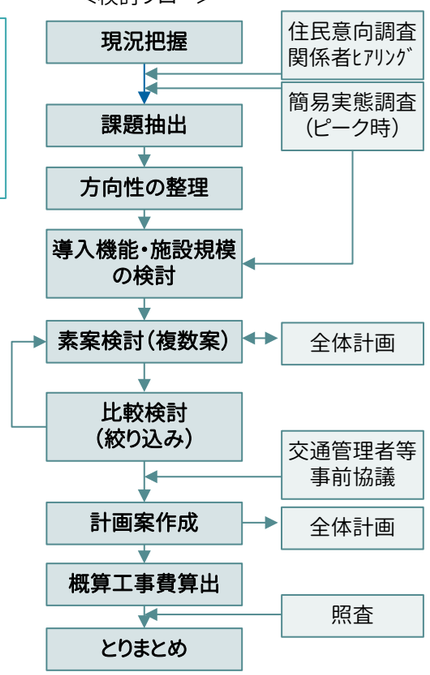
- 駅前広場で待機する従来の配車方式からアプリ等を用いた配車方式が一般化している状況に鑑みて、専用ののりばは設けないものとします。
- おりばについては一般車と兼用します。

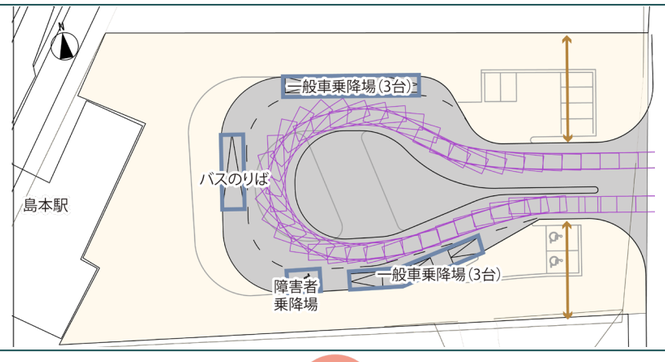
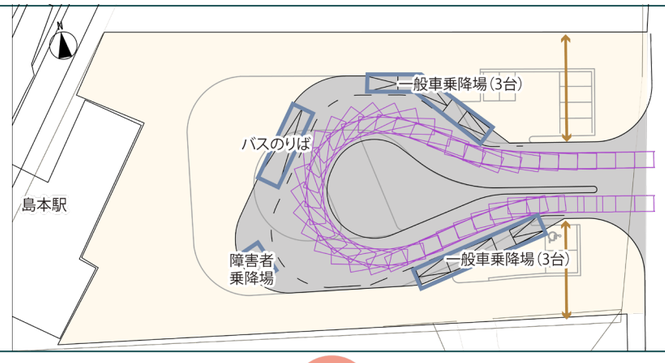
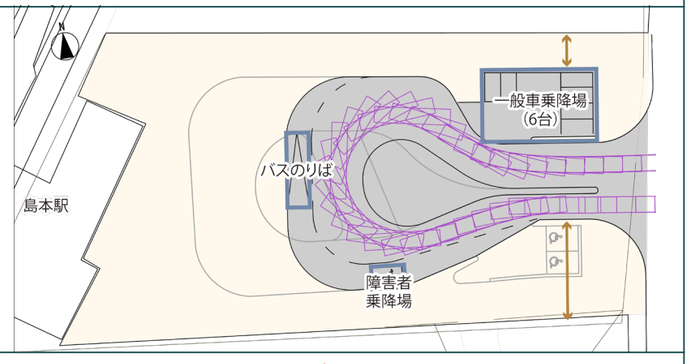
■一般車

- 現時点では現状と同様の6バースを確保します。
- 一般車乗降場とは別に障害者用乗降場を1バース設け、自由通路エレベーターに近い位置に配置します。

※上記は提案時の仮設定であり、採択された場合は、右記検討フローに基づき計画の精度向上を図ります。

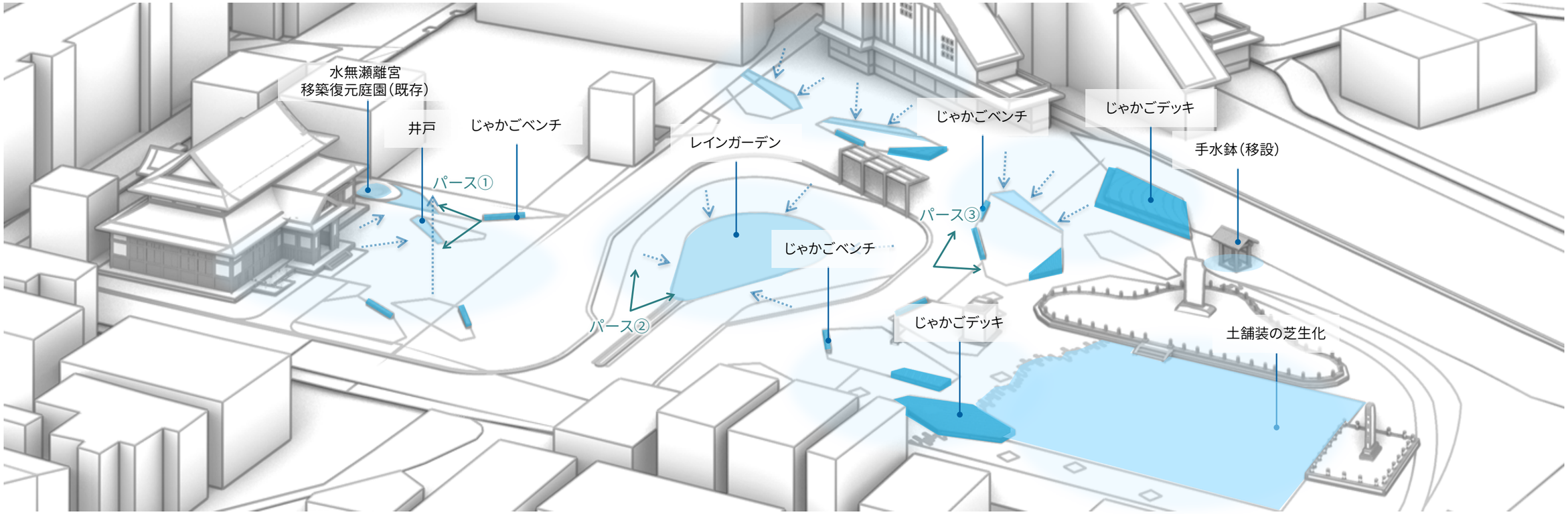
<検討フロー>



	案 1	案 2	案 3
各案の考え方	駅前広場の出入口にある一般車及び障害者の乗降場をロータリー内に配置し、代わりに広場空間とすることでまちに開かれた駅前広場を目指した案	左記と同様に、まちに開かれた駅前広場を目指すとともに、駅舎・自由通路側の広場空間を最大化を図った案	障害者乗降場のみをロータリー内に配置し、ロータリーをコンパクトにすることにより、駅舎・自由通路側により大きな広場空間を確保することを目指した案
導入機能・施設数	[ロータリー内]　バス:1、一般車:6、障害者用:1 [ロータリー外]　－	[ロータリー内]　バス:1、一般車:6、障害者用:1 [ロータリー外]　－	[ロータリー内]　バス:1、障害者用:1 [ロータリー外]　一般車:6
施設配置案			
交通機能面の強化	・ロータリー内に一般車及び身障者の乗降場を配置することにより、円滑な交通処理が可能となる	・左記と同様に円滑な交通処理が可能となる	・一般車乗降場がロータリー内にないため、現状の一般車の課題が残る
周辺とのつながり	・まちとの接続 32m(現況+20m) ・まち、歴史文化資料館及び史跡公園の3方に対して連続性や視認性が向上する	・まちとの接続 32m(現況+20m) ・まち、歴史文化資料館及び史跡公園の3方に対して連続性や視認性が向上する	・まちとの接続 21m(現況+9m) ・まち、歴史文化資料館の2方に対して連続性や視認性が向上する(史跡公園は概ね現況通り)
交流の場の創出	・歩行空間面積 2,380㎡(現況+510㎡) ・新たに歴史文化資料館及び史跡公園の前に広場空間が確保できる(駅舎・自由通路前の広場は不整形となる)	・歩行空間面積 2,530㎡(現況+660㎡) ・左記2広場に加えて駅舎・自由通路前にも整形の広場空間が確保できる	・歩行空間面積 2,510㎡(現況+640㎡) ・歴史文化資料館及び駅舎・自由通路前に広場空間が確保できる

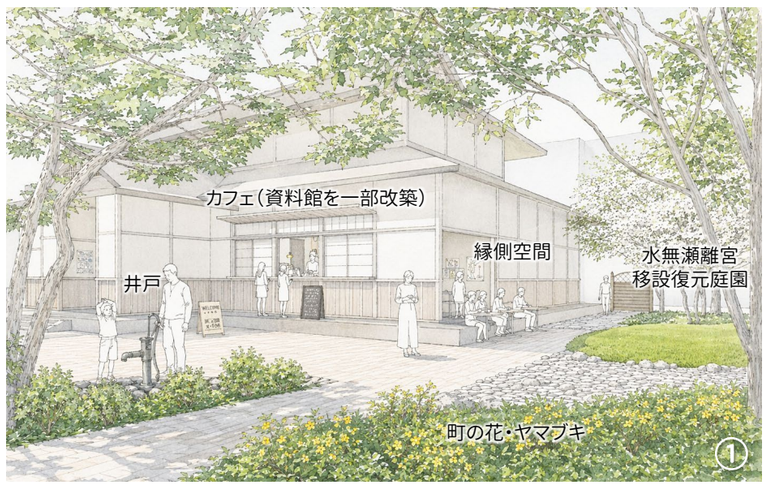
水の記憶を、しつらえと体験でつなぎます

- 地下に流れる水の記憶を、井戸・レインガーデン・じゃかごベンチなどのしつらえとして駅前に表します。
- 「水を味わう」「雨を受け止める、木陰が心地よい植栽帯に憩う」体験を重ねることで、駅前広場・資料館前・史跡公園を水の気配でゆるやかにつなぎます。



井戸水とカフェが生む、縁側空間

- 井戸水をカフェや野点等のイベントに活用し、島本の水の豊かさを体験できる仕組みを提案します。（水質・維持管理の条件は別途要確認）
- 資料館前には屋内外が連続する縁側空間を設け、水無瀬宮ゆかりの庭園空間と一体となった、休憩・交流・回遊の拠点をつくります。



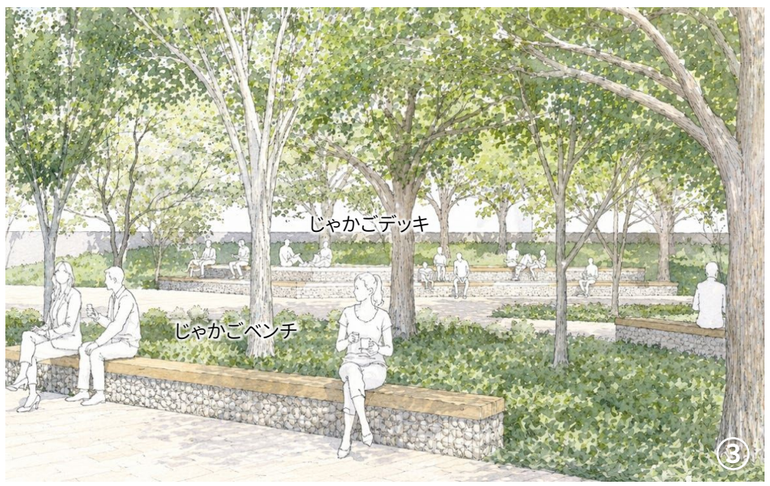
雨水を受け止め、地中につなぐレインガーデン

- 広場に降った雨をレインガーデンで受け止め、地下への浸透促進、雨水の一時貯留、微気候の改善を図りクールスポットをうみだします。
- レインガーデン周辺は水辺の植栽とし、かつて駅前周辺に池が存在していた記憶を受け継ぎ、雨水排出抑制に寄与しつつ、雨水・植栽・木陰が一体となった、涼やかで潤いのある駅前景観をつくります。

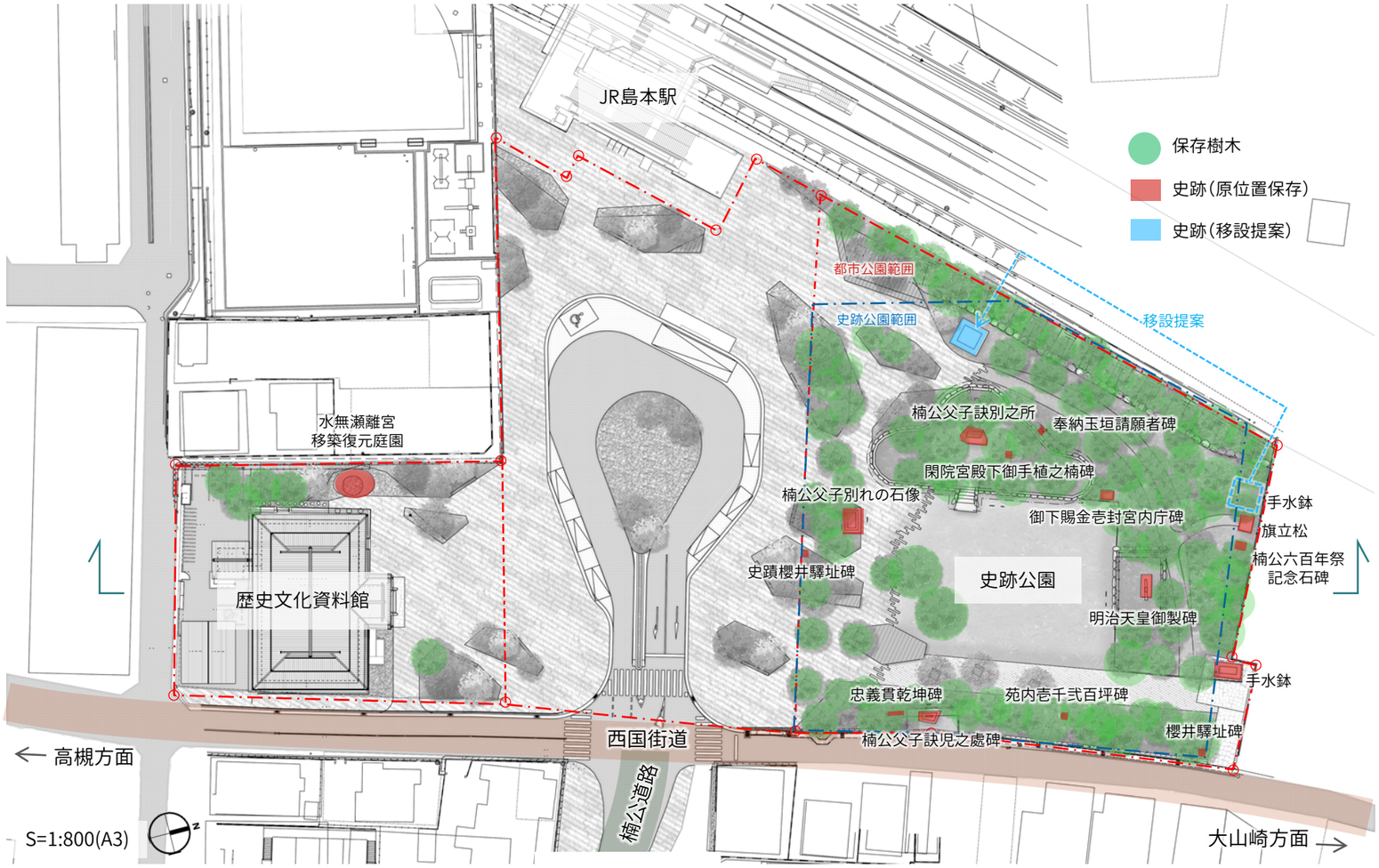


水の気配を感じるじゃかごベンチ・デッキ

- 河原を想起させる小石をじゃかごの中につめ込んだベンチやデッキは、地域になじむ素材感と隙間で雨水や湿り気を受け止める機能を併せ持ち、乾いた広場の中に“水の気配”をにじませます。
- じゃかごベンチ・デッキを、座る・待つ・眺めるための居場所として豊かな木陰の中に配置し、駅前と水辺環境が連続する島本らしい景観を演出します。



既存資源である石碑、樹木などの風格ある佇まいを受け継ぎ、日常の風景にひらきます



史跡公園内の石碑・樹木保存

- 史跡公園における石碑および樹木等の既存資源については、歴史的価値および景観資源としての重要性を踏まえ、現状保存を原則とします。手水鉢1基は駅前近くに移設し、水と歴史が感じられるお出迎え空間の演出を提案します。
- 石碑の視認性や来訪者の回遊性に課題が認められる箇所については、周辺樹木の適切な管理を行います。
- 都市公園範囲については、駅前に近接する立地特性を踏まえ、史跡公園の玄関としての空間利用を重視します。樹木の選択的な伐採を行い、広場空間としての開放性・史跡公園への回遊動線を確保し、来訪者の滞留・交流を促進する場として最大限活用します。
- 伐採樹木は広場や地域内での再利用を検討します。

常緑樹を中心とした豊かな既存樹林



手水鉢（移設提案）



水無瀬離宮ゆかりの移築復元庭園の保存・活用

- 水無瀬離宮の移築復元庭園を、歴史文化資料館と一体となった広場として再整備し、水無瀬離宮の歴史を現代に伝える拠点として活用します。
- 庭園に隣接するように、人々が滞留・活動できる開放的な広場空間を設けることで、駅前空間との連続性を高めます。

出土した庭園



復元された庭園





西国街道、石碑群、史跡公園、歴史文化資料館をひとつながりに読み解き、島本の歴史に自然と出会える風景をつくります。

S=1:400(A3)

水を味わい、歴史に触れ、みどりと遊ぶ、島本らしい時間を育てます

■：水に関するアクティビティ
■：歴史に関するアクティビティ
■：食・文化に関するアクティビティ

■利き水イベント

- 水の違いや特徴を体感し、島本の水資源への理解と愛着を育てます。



■マルシェ・フードイベント

- 地元店舗や農産物を発信し、駅前に日常的なにぎわいを生み出します。



■青空図書館

- 図書館のブックポスト機能を担いつつ、木陰や芝生の居場所を活かし、日常的に本と出会える滞在空間をつくります。



■コミュニティガーデン

- 水の流れや植物の育ちを体験的に学び、見えない自然資源への関心を育てます。



■野点イベント

- 島本の水を活かした抹茶や和菓子を味わい、水文化を日常の体験としてひらきます。

■若山祭

- 神輿ルートの経由点・休憩所として、地域に受け継がれてきた祭り文化を支えます。

■西国街道ウォーキング

- 史跡公園や水無瀬神宮へ歩き出す、歴史回遊の起点をつくります。

■屋外将棋大会

- 木陰の広場で将棋文化（水無瀬駒）を楽しみ、多世代が交流する時間を育てます。

住民・キーパーソン・有識者の声を重ね、島本らしさを実施計画に反映します

調査計画を検討するにあたり注目すべき動向

高槻市のシビックプライド事例

隣接する高槻市は、読売広告社「シビックプライド調査」（2025年・全国278自治体対象）で関西圏第1位を獲得しました。牽引要素は「歩きたくなる個性豊かなまちの魅力」と「公共施設や公園への評価の高さ」です。島本駅東エリアの史跡桜井駅跡史跡公園も国史跡であり、安満遺跡公園は最も近接した参照事例となります。整備の前に「誰と、どう育てるか」が先行している点が重要であり、本調査では住民・地元キーパーソンを巻き込み「島本らしさ」を住民の言葉で可視化し、「自分ごと」として参加する実施計画づくりにつなげます。

国交省・新しい時代の都市再生について

国交省は成長社会から成熟社会への移行を踏まえ、都市の規模ではなく「個性と質・価値」に着目し、固有の魅力を高め人々の「共感」を呼び込む施策の有効性を示しています。島本駅東エリアの価値は、地下水・水無瀬川・若山の森・西国街道の宿場町といった、ここにしかない自然資本と歴史文化に根ざします。本調査では、こうした「固有の魅力」を住民の実感を通じて言語化し、町外と比較した独自の価値を明らかにすることを目的とします。

調査設問設計の方針案

「風景」を起点に島本のシビックプライドを言語化します

島本らしさの核は、住民が長い年月をかけてつくりあげてきた「風景」にあります。一人ひとりが大切に想う風景と、その背景にある記憶・エピソードを引き出すことで、固有の価値と愛着の源泉を可視化します。

複数の主体の視点を立体的に拾います

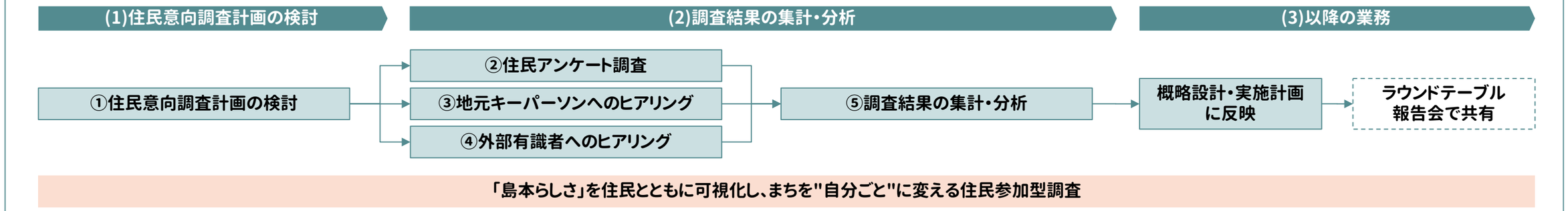
「町／住む人／訪れる人／開発しようとする人」がそれぞれに考え・実行すべきことが浮かび上がる設問構成とし、住民との共創を前提とした設計とします。

「育てていく場」として参加意識を醸成する設問とします

単なる施設ニーズの確認に留めず、今後住民とともに育てていく大切な場として位置づけ、回答プロセス自体が「自分ごと化」につながる体験となる設計とします。

（設問例）
今回の基本計画において最も重視しているのは、島本に住まう人々がみんなで長い年月をかけてつくりあげてきた「風景」です。一人ひとりが、島本のどのような風景を大切に想っているのか、またその背景には、それぞれにとってのどのような想い出があるのか、そのエピソードもお聞かせください。

住民意向調査業務の全体像



①住民意向調査計画の検討

「誰がオーディエンス（届け先）か」を定義し、対象者・設問・手法を組み立てる。あわせて島本町担当課へのヒアリングを実施し、これまでの住民アンケートの手法、住民との協働の取り組み、関連する政策実績を把握する。基本計画策定時の調査やサウンディングの結果もレビューし、不足する論点を抽出のうえ、シビックプライドを軸とした調査フレームを設計する。

②住民アンケート調査

駅東エリアの利活用に対する住民意向を定量的に把握する。基本計画策定時と同様に公式LINE等を活用したウェブアンケートを実施し、過年度調査との経年比較を可能とする。設問は、施設ニーズの確認にとどめず、「島本らしさ」「水・自然・歴史への愛着」「この町で誇れるもの」など、住民自身のアイデンティティを可視化する視点で設計する。

③地元キーパーソンへのヒアリング

アンケートでは拾えない地域の深層的な価値・記憶を、5名程度のインタビューで把握する。対象者候補は、(a)歴史文化資料館館長、(b)若山神社など地域の社寺関係者、(c)自治会・町会の代表、(d)史跡公園でイベントを担う市民団体、(e)西国街道沿いの商店・地元事業者、(f)子育て世代・若年層の駅利用者等。最終的な人選は島本町担当課と協議のうえ決定する。

④外部有識者へのヒアリング

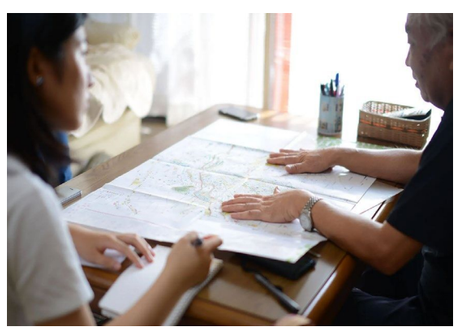
町内の視点だけでなく、外部の有識者・実践者へのインタビューを実施する。対象候補は、(a)流域・水環境や生態系の研究者、(b)シビックプライド／地域ブランディングの専門家、(c)史跡を活かした公園づくりや住民参加型運営の実践者、(d)ネイチャーポジティブ・ウェルネスの有識者。島本の価値を全国・先進事例の文脈に位置づけ、③地元の視点と突き合わせることで分析の精度と説得力を高める。

⑤調査結果の集計・分析

②の定量データと、③④の定性的な語り（内部・外部の両視点）を統合的に分析し、島本のシビックプライドの核となる価値を抽出。あわせて、定性評価を裏付けるため、国・自治体・研究機関等が公開する統計・分析データ（オープンデータ）を活用し、定量的な根拠を補強する。分析結果は概略設計・実施計画へ反映するとともに、ラウンドテーブルや報告会で共有し、参加型の合意形成プロセスへとつなげる。











地域に根ざした関係性と先進事例を掛け合わせ、島本らしい民間利活用のかたちを共に描きます

当設計共同事業体が実施している連携可能性のある実績

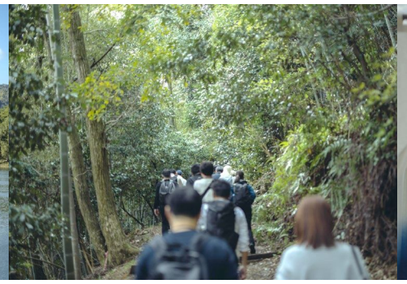
淀川流域百年の計を産学官連携で構想する”Aru Society”の取り組み等会の開催

- AruSocietyは、ロフトワークが2024年10月に発足した都市コモンズプロジェクト。「淀川流域百年の計」をテーマに、桂川・宇治川・木津川が合流する三川合流地帯を中核フィールドの一つに据え、サントリーHD・東京大学（中島直人教授）・京都大学（近藤尚己教授）・日建設計・JR西日本など産学官の主要プレイヤーが参画する横断的なプログラムを展開しています。島本町に立地するサントリー山崎蒸溜所と「天然水の森」、水無瀬神宮の「離宮の水」を起点に、100年スパンで地域の水・森・暮らしを再設計するスタディを継続してきました。
- 今回の民活対象エリアも実際の現地ツアー・対話拠点として活用しており、島本町地域再生ビジョンが描く「文化的イノベーター」を掘り起こし、相互に出会わせる場を継続的に運営。本業務における民間利活用の検討においても、即時に動かせる関係性とネットワークを保有しています。

水無瀬神宮における共創型座談会の開催

- 島本町の重要な文化拠点でもある、水無瀬神宮において、島本町地域再生ビジョンのイノベーター理論を前提に、地域のプレイヤー、電鉄会社各社、自治体が集まり定期的に座談会を開き、キーマンとなるローカルプレイヤーとの関係性を構築しています。





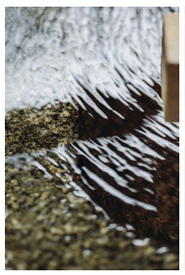
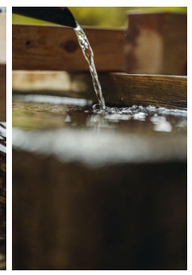


民間利用に関する参考事例

- 以下はあくまで現時点での参考事例です。実際の民間利活用の検討にあたっては、島本町との協議を通じて対象施設・エリアの特性を踏まえたモデル事例を改めて調査・整理していきます。

名水×コーヒーで人を呼ぶ、京都 梨木神社の民間活用モデル

- 京都御所東に位置する梨木神社には京都の三代名水の一つ「染井の水」という湧水の井戸があり、明治18年10月三條實萬公を御祭神として創建された由緒ある神社。
- 株式会社COFFEEBASEは、水と井戸を守ることをコンセプト軸に据え店内の一部を改装し、2022年梨木神社店を開店。染井の水の特性を活かした珈琲焙煎法を研究し、水と土地のストーリーとして、そのような場所で過ごしてもらう価値を顧客へ提供したところ、開店一年で国内外から多数の来客数があり瞬く間に人気店に。収益の一部は店の運営費と神社の保全に当てられています。


ロフトワーク取材記事：https://loftwork.com/jp/finding/kyoto_insight-research-report

森ビルが専門家と場を整え、住民が緑を育てるコミュニティ

- 森ビルは1997年、民間再開発エリア・アークヒルズの開業10年目のリニューアルを機に、専任ガーデナーを配置し近隣住民約100名が参加する「アークガーデニングクラブ」を発足。月3回の定例講習会と週1回の自主活動を有料会員制で運営し、専門家が指導しながら住民が主体的に緑を管理する構造を実現しています。
- 緑被率40%超・ヒートアイランド緩和・生物多様性の保全といった環境成果とともに、エリアをまたいだ住民コミュニティが生まれ、国内外の環境賞を受賞。収益の一部は緑の維持管理費に充てられています




出典：https://www.mori.co.jp/press/release/post_30/
出典：https://www.mori.co.jp/press/release/100_1/

市民が生き物を調査管理する、行政×市民の生物多様性保全

- 西宮市は2012年に「未来につなぐ生物多様性にしのみや戦略」を策定。甲山自然環境センター・北山緑化植物園など複数の施設をネットワーク化し、市民が自然体験・環境学習に参加できる場を行政主導で整備。小学生が参加する生きもの図鑑制作や市民自然調査など、次世代への継承も組み込んだ仕組みを構築しています。
- 市民・NPO・事業者・行政の役割を明確に分担し、市民はボランティアとして里山整備・ホタル調査・外来種管理を担い、行政は施設管理と連携調整に集中するモデルを実現しています。




出典：https://www.nishi.or.jp/kotsu/kankyo/seibutsutayosei/seibutsutayousei/shizenkyouseisaito.html
出典：https://www.nishi.or.jp/kotsu/kankyo/seibutsutayosei/seibutsutayousei/kabytoyama-tayosei.html